

## 各審議会における意見と対応

時期	審議会	項目	意見	対応
平成21年12月25日	農業振興審議会	第2章 情勢変化	1 農林水産業の現状と役割において、本県は、販売農家数は全国第3位ですが、1戸当たりの生産額が低いという課題があるので、「販売農家」のあり方について書き込みが必要ではないか。	意見を踏まえて修正しました。 10頁の「農林水産業の就業者と産出額」に、本県は、農家1戸当たりの生産農業所得が低いことや、小規模農家が多い生産構造にあることを追記しました。
		第3章 めざす姿	2 16頁の25～27行目。「…生産力の強化に向け、農業経営の安定を図るとともに、農業用施設や…」と、農業振興とそれを支える基盤整備を並列としているが、「図るために」ではないか。	意見を踏まえて修正しました。 経営の安定は、農地集積や融資などのソフト面の対応を想定しているため、「本県農業の生産力の強化に向け、農業用水利施設や農地、農道などの生産基盤の整備と適切な維持管理、耕作放棄地の解消等を進めます。」と修正しました。
		第4章 施策の展開方向	3 【指標】 「農作業事故」による死亡事故の割合(10万人当たり)は、建設業よりも多い。何らかの目標をもって防止を図っていくべきではないか。	ご意見を踏まえて修正しました。 第2節の1「いきいきとした農業担い手づくり」の39頁に、農作業事故防止に係る記載を加えました。 指標については、過去の本県における農作業死亡事故年間発生件数(過去5年間の平均で約16件)の半減(年8件)以下を目標として設定します。
			4 【指標】 「ふくしま農林水産ファンクラブ」の考え方が再考されていない。量と質の両方を高めるファンクラブの強化ということを考えればよいのであって、数値目標は、1割でも2割でも上げればよい。	ご意見を踏まえて修正しました。 目標の考え方は、地産地消イベントへの来場者など、県産農林水産物に関心の高い消費者等に会員になっていただき、現在の1.5倍以上となる会員となる3000名を目指します。
			5 今後、農業水利施設の管理が財政的にも難しくなると思われる。これについては、16頁(26～27行目)に「適切な維持管理」とあるが、米が余り、生産調整が行われている現状を鑑みて、田畑輪換等による水田の畑作化をすすめ、水をあまり使わない農業を推進することも必要ではないか。	原案のとおりとします。 農業水利施設の維持管理については、重点戦略7(161頁)により、既存施設の有効活用、長寿命化、トータルコストの低減、受益者の負担軽減等に努めていきます。 水田の畑作化については、米の計画生産を基本とした水田の有効活用のために不可欠なものでありますが、畑作物の連作障害回避等のため、水田利用と畑利用のローテーションが必要であり、水田の畑作化とまでは言える段階ではないと考えております。
			6 農業者だけ頑張っても、食料自給率は向上しない。「県民に期待する役割」にしっかりと「自給率の向上」を記載すべき。	意見を踏まえて修正しました。 県民に期待する役割として、農林水産業等へ理解を深め、本県の魅力を発信する役割だけでなく、「県産農林水産物の地産地消や地域の環境に配慮した暮らしを实践する」旨追加しました。
		第7章 計画実現のために	7 食料が不足したときに困るのは消費者。だからこそ、大多数の消費者たる県民の役割として、日頃から、県産農産物を積極的に購入することを役割として記載すべき。	
			8 「県民に期待する役割」として、「県民の消費行動」、「農林水産業・自然環境問題との関わり」など記載しており、広く捉えれば「自給率向上」に触れている。あえて記載するならば、県民に浸透していてわかりやすい「地産地消」という言葉を記載することが適当だと考える。	
		全体	9 第4章「施策の展開方向」と第5章「重点戦略」の関連がわかる資料が必要。これがあれば、県民への理解もすすむと考える。	意見を踏まえて追加(196頁)しました。

## 各 審 議 会 に お け る 意 見 と 対 応

時 期	審 議 会	項 目		意 見	対 応 (案)
平成21年12月22日	森 林 審 議 会	・ 第3章 ・ 農山漁村の ・ 森林水産業 ・ 姿	1	木材の用途が建築用主体から、原材料等へシフトしており、需要構造が変わってきている。 第3章の「施策の基本方向」に一言でよいので盛り込んでほしい。	意見を踏まえて修正しました。 第3章第3節3の 3番目の内容を修正しました。
			2	複合経営における林業後継者の書き込みを検討してほしい。	原案のとおりとします。 本計画では、施業の集約化や低コスト化による森林所有者の収益向上を施策の基本方向に位置付けており、第3節には、その旨を記載しています。また、林業後継者の支援については、第4章の施策の展開方向で具体的に記載しています。
			3	「県産材のニーズへの対応」等で16頁の41行目から表現を検討すべき。	意見を踏まえて修正しました。 第3章第3節3の 3番目の内容を修正しました。
		施策の第4章 展開方向	4	エンドユーザーとの結びつきについて「農林水産業を支える絆づくり」の中に記載すべき。	意見を踏まえて修正しました。 第4章第1節1にその旨の記述を追加しました。
		全体	5	前回までの計画の総括(まとめ)により、今回の計画はどこが違うのかを明確にすべきではないか。前回計画の総括がイントロに必要ではないか。	原案のとおりとします。 「うつくしま森林・林業・木材産業振興プラン21」の総点検については、平成21年3月の森林審議会において審議いただいております。課題については、今回の計画に反映させています。

## 各 審 議 会 に お け る 意 見 と 対 応

時 期	審 議 会	項 目	意 見	対 応 ( 案 )
平成21年12月25日照会・平成22年1月6日回答	水産業振興審議会	第4章 施策の展開方向	1 消費者や子どもたちの魚への関心を高めるため、小学校等での料理教室等を開催していきたい。	ご意見として今後の施策展開の参考とします。 計画の内容に対応した生産現場での取組みを考えていただき、今後、連携して進めていけるよう検討してまいります。
			2 「農林水産業を支える絆づくり」(21頁)の取組内容に、「水産物」と「漁業体験」も記述してほしい	意見を踏まえて修正しました。 農業体験で、林業、水産業も包括している記述としておりましたが、水産が含まれていることを明確にするよう修正しました。(農業体験 農林漁業体験)
			3 「1水産資源の持続的利用」(109頁)にマコガレイ産卵後漁獲規制を検討いただきたい。	原案のとおりとします。 計画には記述しませんが、資源管理の新たな取組みとして、協議していく考えです。
			4 「3漁業生産基盤の整備」(117頁)と「4水産物の流通加工対策」(119頁)について、両者における市場の「統合」、「集約化」、「機能強化」の記述について整理すべき。	ご意見を踏まえて修正しました。 沿岸漁業生産に関する設備面での機能の付加については「基盤」に記述しました。流通、加工との関連を含めた「産地全体の流通機能」については、「流通・加工対策」において課題認識を追記するなど表現を明確化しました。
			5 「4水産物の流通加工対策」(119頁)に産地市場の集約化をどのように進めていくか記述すること	原案のとおりとします。 県は集約化に向けて誘導するため、市場関係者、地元市町の方の方向付けが決まるよう、協議を進めてまいります。
			6 「漁業関係団体との連携」(123頁)に、漁協の経営基盤等強化の必要性を記述すべき。	ご意見を踏まえて修正しました。 「現状と課題」の記述を修正しました。
			7 「漁業関係団体との連携」(123頁)に、展開する施策を記述すべき	原案のとおりとします。 県としては、財務状況の改善に向けて指導、助言を行っているところですが、この計画に記載するには具体的すぎますので、案の表現のままいたします。
			8 【指標】「インターネット販売等の取組数」について、売上高を把握する必要があるのではないか	原案のとおりとします。 各漁協、支所に取組みを促し、半数程度を目標値としました。売上高については、必要に応じ把握してまいります。
			9 【指標】「沖合漁業の属地水揚げ量」について、モニタリングではなく目標を設定してほしい。	原案のとおりとします。 増加に向けた取組みを進めますが、数値の設定については、対象種の資源量の変動が大きく、また、予測できないことなどから困難と考え、増加を目指すとしております。
			10 常磐自動車道のサービスエリアで販売する土産用の加工品の開発等を進めていきたい。	ご意見として今後の参考とします。 計画の内容に対応した生産現場での取組みを考えていただき、今後、連携して進めていけるよう検討してまいります。
			11 昨年、農業総合センターでの産直イベントでは、水産以外の第1次産業者との交流を深めることができた。今後も意欲的に参加していきたい。	ご意見として今後の参考とします。 計画の内容に対応した生産現場での取組みを考えていただき、今後、連携して進めていけるよう検討してまいります。